

# 新治小学校だより



ひびく心 はずむ体 見つめる目

～新治のよさを持続して生かしながら、  
よりよい社会を創ろうとする子どもを育む学校を目指して～

令和5年度

2月号

令和6年1月26日



## 自分の命を守る ～中休み・予告なし地震避難訓練～

校長 川島 広子

普通のカエルはカエルの姿で冬眠しますが、新治小学校のピオトープに放流した絶滅危惧種のツチガエルはオタマジャクシのまま越冬します。子どもたちは体長5cm以上もある大きなオタマジャクシが冷たい水中でジッとしている姿に驚きながら観察を続けています。

さて、新年早々に起きた、能登半島の大地震は甚大な被害を及ぼしました。今なお、多くの方々が避難を余儀なくされており、能登半島の状況をニュースで見るたびに胸が痛みます。被災された方々にはお悔やみ申し上げますとともに1日も早い復旧を心よりお祈り申し上げます。

私たちの住む横浜市も今後30年以内に震度6弱の首都直下型地震が起こる確率が70%と言われており、今回の能登半島の大地震は、決して他人事ではありません。新治小学校では、地震、火災、水害、不審者対応等への訓練を行っていますが、これまでの訓練は全て、授業中の担任や教科担当が児童のそばにいる時間帯に実施していました。しかし、登校直後や、昼休みなど、児童が教室以外の場所にいる時間帯や、教師がいない時間帯に発生する可能性もあります。

そこで、今年は教師の指示がなくても子どもたちが自分で判断して自分の命を守るよう、「中休み・予告なし地震避難訓練」を実施しました。1月18日(木)中休み10時25分、副校長が「訓練、訓練、地震が起きました。校舎内にいる人は姿勢を低くして頭を守り、近くの教室の机の下に入ってください。校庭にいる人は真ん中に集まってください。校舎内の方は近くの教室の机の下に入りましょう。近くに大人がいる場合は指示に従ってください。」と放送します。子どもたちはこの放送だけを聞いて、教師の直接の指示なしに、机の下にもぐったり、ダンゴムシのポーズ(シェイクアウトポーズ)とったり身を守る行動をとりました。次に「揺れが収まりました。近くにいる先生の指示に従い校庭に避難してください。先生がいない場合は自分で校庭に避難してください。」の放送で、避難場所の校庭に避難してきました。校庭に集まり安全確認終了まで4分半。混乱もありませんでした。

訓練後にロイロノートで実施した振り返りアンケートでは、子どもたちは、教師がいないことに戸惑いながらも今までの経験や知識を生かし、主体的に行動し、多くの気づきを得ていることが分かりました。以下に子どもたちの感想を載せましたが、高学年が下級生を取りまとめ避難しようとする役割意識や貢献意識の高さや、課題を見出して解決策を考えようとしたりする主体的な姿が見られます。

- 最初はパニックになったけど、友だちを見てダンゴムシポーズを思い出せました。(3年)
- 教室に残っている友だちの話声で放送が聞こえなかった。次は手をグーにして黙ってと合図をだしたい(5年)
- 先生がいないのに避難していいのか意見が割れて、避難が遅くなった。本当の地震なら死んでいたかもしれない(5年)
- 特別教室棟のドアが壊れていると放送で言っていたから、6年生が下級生を誘導してくれた。私もそんな6年生になりたい(5年)
- 少しでも助かる可能性を高めるために防災に対する意識を強く持ちたい(6年)

大地震発生時は教育委員会の規定に基づき、以下の対応を取ります。まず、最も安全な校庭に避難します(雨天時も)。その間に体育館の安全を確認し、確認後に体育館に移動します(体育館は耐震構造が強化されています)。**震度5強以上であった場合、児童は学校留置きとなります。学校からの連絡有無に関わらず、保護者又はあらかじめ登録された代理人の方が引き取りに来てください。**

※4月配布の保護者通知にも記載されています。

新治小学校では、さらに様々な被災ケースを想定し、対応を再構築する必要があると考えています。登下校時刻に大地震が起きたら…、放送機器が使用できなくなったら…。「想定外」を少しでも減らせるよう、様々なケースでの対応方法を想定し事前検討を進めます。

最も心配なのは、学校が関与できない状態での災害発生です。登下校中や、仕事で家に家族がいないことが多いご家庭は、避難場所や避難方法について子どもたちと話し合ってください。また、登下校中等に、避難に戸惑う子どもがいた際には、ぜひ地域の皆様のお力添えを頂きたく、お願いいたします。引き続き命を守る教育を続けてまいりますので、皆さまのご支援、よろしくお願いいたします。

